

いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

1. オンラインフォーラム「原発はやめようよ」の開催予定

日本聖公会は2019年に「原発のない世界を求める国際協議会」を開催しました。その参加者たちは原子力発電から解放された世界を目指すために8項目の声明を採択し呼びかけています。その中には、「フクシマの出来事の証言者」として、「日本聖公会に『福島週間（仮称）』を創設し、“あの出来事”が語ることを聴き、学び、いのちを尊び、平和に生きる社会の実現へと歩み続けること」や「脱原発のためのネットワークを強化・充実させること」、「各教区に自然エネルギーによるモデル教会を作り、方向性を指し示すこと」などが宣言されています。日本聖公会正義と平和委員会原発問題プロジェクトでは、この2021年6月6日（日）（地球環境のために祈る日）の前後を「原発のない世界を求める週間」として以下のプログラムを計画しました。未だコロナ禍終息の見通しも立っていないことから、基本的には全てオンライン形式とし、結論を出すことよりも対話を通して理解を深めることや、協力のネットワークを作るための機会とすることを意図したものです。正式のご案内が各教区に配布されていますのでご検討ください。以下にご参考として概要を示します。（差異がある場合は正式なご案内の方を正とします。）

日本聖公会「原発のない世界を求める週間」2021・6・6～6・12

オンラインフォーラム：『原発はやめようよ』プログラム

前半プログラム

日程	午前	午後	夕方
5月30日（日）		15：00 集合、オリエンテーション 15：30 開会の祈り、メッセージ：武藤首座主教 16：00～18：00 講演：片岡輝美氏 (会津放射能情報センター代表)	←公開 ←公開
5月31日（月）	9：00～11：30 フォーラム1 「教会とエネルギー」 発題とグループによる自由な話し合い 全体への分ち合いとまとめ	15：00～17：00 フォーラム2 「核のゴミ」「原発事故」 発題とグループによる自由な話し合い 全体への分ち合いとまとめ	19：00～21：00 分かち合い (事前提出) 私たちの教区、教会の姿 全体による分ち合い
6月1日（火）	前半の締めと後半への引き継ぎ 10：00 前半の終了、解散	(スタッフ会議)	(スタッフ会議)

後半プログラム

6月6日（日）		17：00～19：00 フォーラム3 「再生可能エネルギーの活用」 発題とグループによる自由な話し合い 全体への分ち合いとまとめ	
6月7日（月）	9：00～11：30 フォーラム4 「私たちに出来ること。私たちの責任」 発題とグループによる自由な話し合い 全体への分ち合いとまとめ	15：00～17：00 フォーラム5 「私たちの教区・教会での働き」 事例紹介：おひさまプロジェクト紹介 全体による分ち合い	19：00 閉会メッセージ 閉会礼拝 (上原主教) 解散

参加者：各教区 2 名（各教区で推薦）。正義と平和委員と原発問題プロジェクト委員など。

* 原発や核の問題に関心の深い方。

* 原則として前半、後半、通して参加できる方。

* 参加者は、話し合いや分かち合いの参考のため、以下についての報告(A4 一枚程度)を申し込みと一緒に送り下さい。形式や内容は問いませんが、できるだけ下記についてお書き下さい。

・ 貴教区での原発や核、環境などに関する取り組み。

・ 原発や核、環境に関する課題についての参加者ご自分の関りや活動。

・ その他、この期間中に分かち合いたい事柄。

場 所：原則、オンライン。但し、プログラムに集中するため日常の場を離れての参加を希望する方は、ご自身で近隣のホテル等を予約して下さい。この度の課題を身近に感じて頂くため、最寄りの原発やその関連施設に近い場所を選んで頂くのも一案です。宿泊費と交通費は原発問題プロジェクトが負担致します。但し、宿泊費の上限は管区規程に則り一泊 10,000 円(税込み)と致しますが、できるだけ経費の節約にご協力下さい。

参加費：必要ありません。しかし、参加者が貴教区内の施設や設備の利用を希望する場合は、便宜をお図り下さい。

申し込み：5 月 10 日（月）までに、以下の必要事項を記入の上、下記メール宛てにお申し込み下さい。送付先メールアドレス：province@nssk.org (日本聖公会管区事務所)

2. 今、これをしなければならぬ訳は

2012 年の聖公会宣教協議会、2019 年「原発のない世界を求める国際協議会」、そして今回の、「原発のない世界を求める週間」に因む「オンラインフォーラム『原発はやめようよ』」は、コロナ禍が終息せずに私たちの生活を苦しめている最中においても、「核のゴミ」の処分地や「原発汚染水の海洋放出」の問題が取り上げられ、さらに原発の再稼働が進められようとしているからである。そして、既に明白となった「核といのちは共存できない」にもかかわらず、経済中心の政策のもと、民主主義社会を無視して人間にとって掛け替えのない「いのち」を危険に晒し、国民を分断する原子力エネルギー政策の転換を求めるからである。

私たちはこれを政治活動として行っているのではない。これは私たちキリスト者のミッションである。そして「いのち」という「尊厳限りなきもの」を守るからだからである。この思いを私たちは 2012 年以來、一貫して取り上げてきた。「人間と命の尊厳を守る」ことは、現在の状況において、宗教者にとって、たとえ、同じ経済社会に生活していようとも無関心でいられることではないのです。